かくれた名峰 杉ノ谷山国有林

国民の山 国有林

香美市 安芸市

杉ノ谷山 1367m

H28.7.21 安芸市百井においてツキノワグマが目撃された。香美市石立山方面より緑の回廊を通ってやってきたのだろう。

空を見上げるとえぎるものがない。快適だ!!

三嶺方面が見える
太平洋が見える

下りになる

杉ノ谷山は遠い。遠いからこそ来てよかったと思える。

フッナの手つかずの森

五位ヶ森

香美市との境

ここから平坦になってくる

大きな崩壊

フッナの木は、ナラの木と違って材が柔らかく役に立たないから「無薪」(フッナラ)と呼びセカリ倒したら短期間に朽ちるので「木無」と書く説がある。
四国の一部では「オモキ」と呼ぶ。「オモ」とは母を意味する朝鮮語に由来し、この木を森を育てる母なる木」として親しみ呼んだゆえの言葉であるとする説がある。

本のブナには約1tの水がたくわえられ、さらに根元の土壌には2tもの水が保持されている。

杉ノ谷山(1367m)

安芸平野よりかおかに見える安芸市最北の山の一つ。(国有林)
古井登由でも畑山登由からも宝蔵峠を経て登山口まで約2時間。
山登りの本にも載っておらず、ほとんど一般の人々には知られていない山である。
山頂一帯はほぼ平坦でブナの大木がゆったりと調和して生息している。
南には太平洋を、北には三嶺など四国山脈を望むことができる。

安51図根点 1235m

荒れた谷を渡り造林地の歩道にのる

ブナ林の功養は保水力が高く水源かん養の森として極めて重要

林道終点

みくまりちゃん

水の神は「水分神(みくまりのかみ)」と呼ばれるところがある。
雨が山の尾根に降るとき水のこども「みくまり」がうまれる。

リガヤモミなど天然林の大木をながめながら登る

張川林道52支線

境界標を目印に登る

図根点 安50 952m

展望広場

徳島県境の剣山地から伊尾木川に切れ込む深い山々がよく見える。

まるまる一日コースの水や食料、ヘッドライトなどの装備が必要。

このマップは張川林道52支線終点より谷をわたり安51～山頂～安50の順に書いています。

道に迷ったり進むべき道を見失った時には決して下ってはいけない。

迷ったらとにかく上へ登ること。下れば深い谷ばかり。危険。
クマに出会うこともありえる。

辛くても上へ登る。そうすれば必ず頂上へ続く道を見つけられる。

52民

明治期土佐の炭の生産量は日本トップ。紙、京、大阪などのくらしを支えていた。

インレンジャー

別役↑

1569年、長宗我部氏との戦いに敗れた安芸国虎の長男千寿丸が一族の畑山氏とともに阿波の国へ落ち延びる際に通った記録が残る。

別役～正藤～畑山を結んでいた往還道。歩いてみたい。

正藤・中ノ川の集落は'52年安芸市の集落移転事業で廃村となる。

正藤には柚子畑につつまれるように廃屋が残り、スギ木立の中に学校の建物がある。
校舎の中にある黒板には平成初期にチョークで記された名前をはじめ、びっしりと卒業生が縁のある人の言葉が刻まれている。

炭焼きもさかんにおこなわれており鉱山の機械用に多くが使われていた。

栗の木橋へ

未舗装

吉井 大井

長い林道

時々カモシカがあらわれる

宝加勝鉱山
明治19年、別役茂太郎氏が経営を始め銅を採掘していた
(国有林下の民有林)

張川

ゴンドラ

営林署の事業所跡
当時、ここの児童は山道を歩いて正藤にあった小中学校へ通っていた。事業所開所によって中学校開校。それまでは畑山まで通学していた。

中ノ川

張川林道
S26 畑山～中川周遍
S46 宝蔵峠を越えて伊尾木林道と連結

宝蔵峠
安芸橋より約35km
伊尾木橋より約40km

杉ノ谷山の近くの別役杉ノ峰というところには、その昔、山姥が住んでいたという民話が残っている。

畑山
栃の木へ

日本一長い山名?

ものの本によると日本一長い名前の山は山梨県大菩薩山系にある「牛奥ノ雁ヶ腹摺山」(ウシオクノガンガハラスリヤマ)であるとされているが、ここには「丸塚宝加勝下宝加勝山」(マルツカホウカショウシモホウカショウヤマ)がある。文字数、読み数ともあきらかに長い。もしかして日本一?

仙谷林道

ラクダのこぶのような山が五位ヶ森

ひときわ高く見える山が杉ノ谷山

安芸橋近辺より遠望